

学校と地域の連携・協働を見つめて③

真庭市立北房小学校
(2学期の取組)

『連携・協働を意識した家庭科の授業』に注目

真庭市立北房小学校(平成30年度新設)では、2学期から、授業でも学校と地域が連携した活動が始まっています。地域連携担当(学校側の窓口)と地域コーディネーター(地域側の窓口)との日常的な情報共有の場を有効に活用し、学校の“ニーズ”を両者で十分共有します。授業の目的を把握した上で、地域住民の学び(得意分野)も生かしながら、授業が展開されています。

地域との連携で、きめ細やかな指導体制が実現！ 「エプロン作り(5年家庭科)」

授業前の打合せが有効



事前に学校の“ニーズ”が具体的に伝わっているため、**授業前の簡単な打合せ**で活動内容等の確認が可能。

授業の目標を踏まえ、**児童が困りそうな作業や、その対応の仕方等**を打合せ。

きめ細やかな指導体制

どの子も安心できる環境

子どもたちは、一人一人、**技術や作業の進度には差が生じます。**

子どもたちの質問等に同じように対応できる大人が複数いることで、**どの子もつみのこしのない**ようにしています。



裁縫の楽しさを伝授

長年趣味にしてきた裁縫の経験を十分に発揮し、針の刺し方や生地扱い方等、**コツを伝えて**います。作業がはかどってくると、子どもたちも**夢中になり、裁縫を楽しむことができて**いると感じています。

【児童の声】

裁縫には初めて挑戦しました。先生や地域の方がやり方を手元で見せてくれたので**分かりやすかった**です。初めはなかなか進まなかった作業が段々上手に速くできるようになりました。

【教職員の声】

授業前に学習目標、児童の実態を踏まえた対応等を共通理解することで、**地域の方の経験がより授業に生かされます。**

複数の大人による指導体制により、**一人一人の児童の質問等に余裕をもって丁寧に対応でき、全員が学習目標が達成**できます。

連携・協働
のポイント

地域住民の学び(得意分野)を「何のために」、「どのように」生かすのかを具体的に共有しよう！